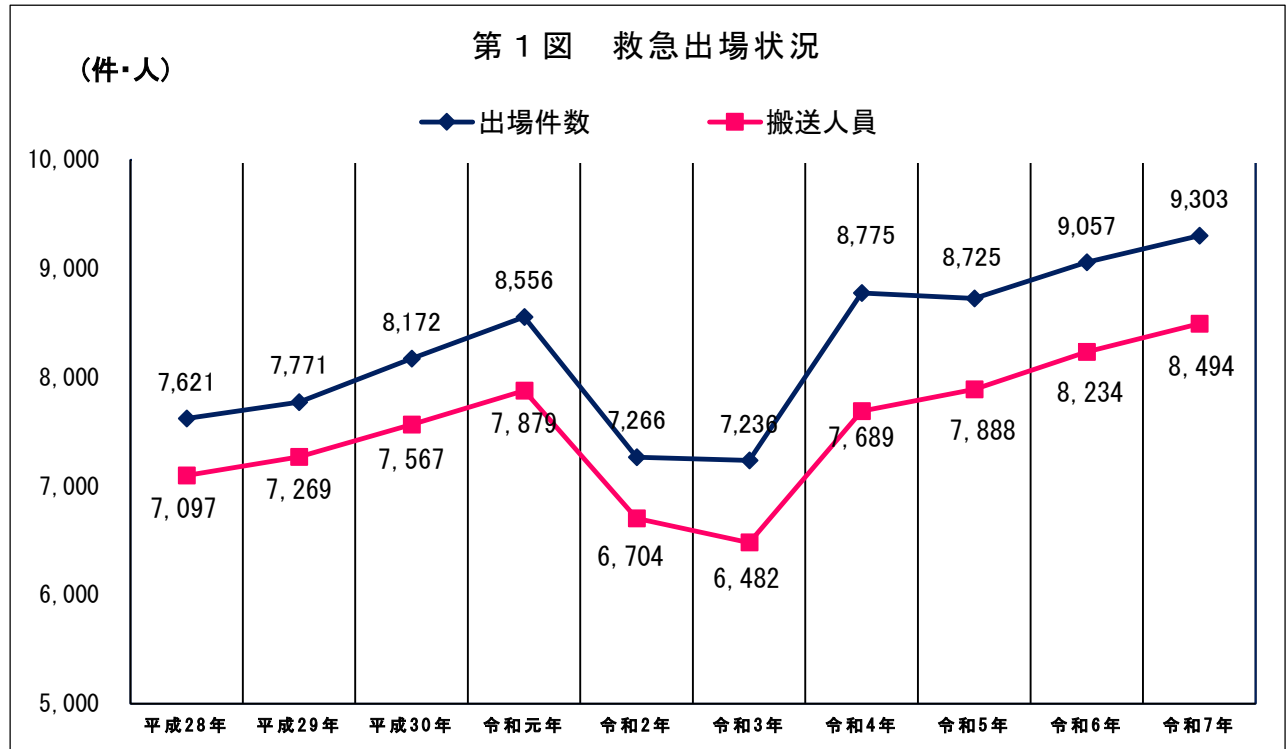


令和7年上半期（1月～6月）における救急概況

※ 本統計中の全ての表・図における合計値は、端数処理の関係で100%とまらない場合があります。

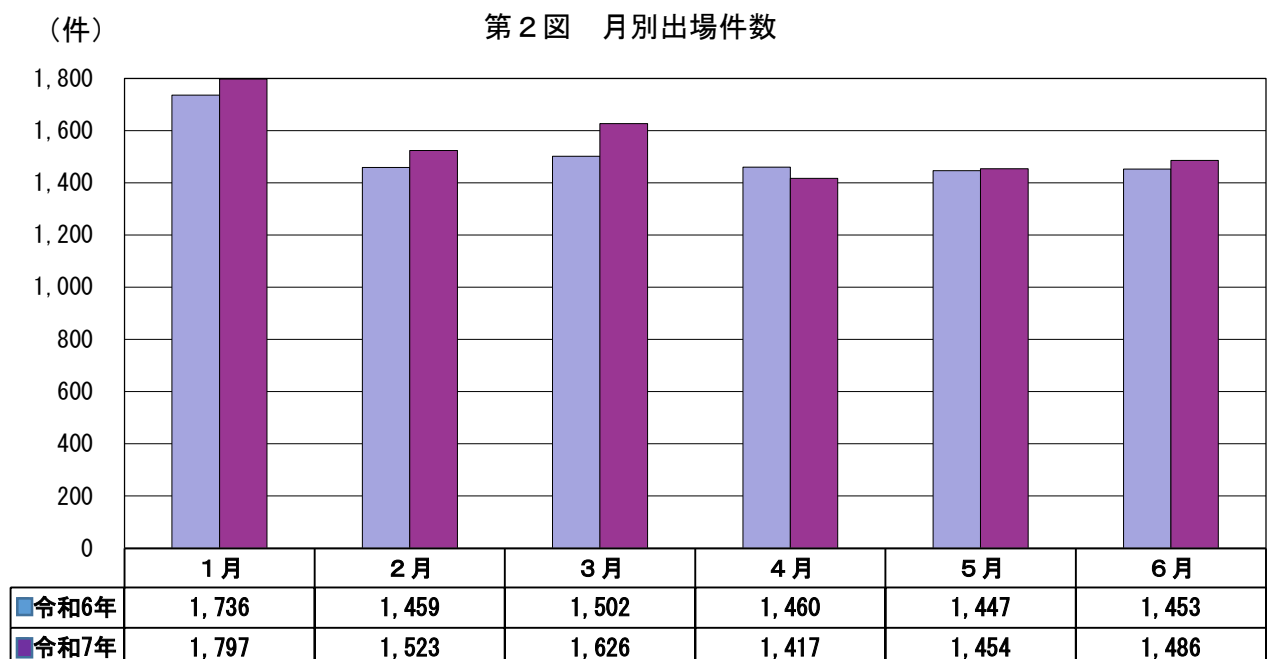
1 救急出場状況

令和7年上半期の救急出場件数は9,303件で、前年同期と比べて246件増加している。
これは、1日平均51件（28分に1件）の割合で救急車が出場していることになる。
搬送人員は8,494人で、前年同期と比べて260人増加している。（第1図）



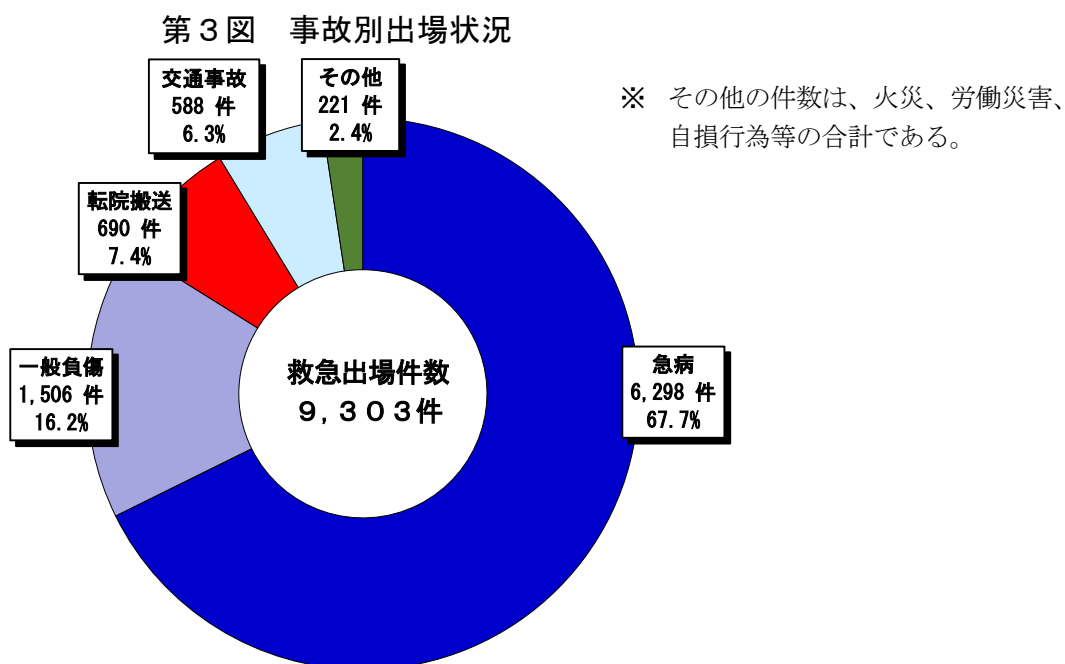
2 月別出場件数

救急出場件数を月別で見ると、1月が1,797件で最も多く、次いで3月が1,626件、2月が1,523件の順となっている。（第2図）



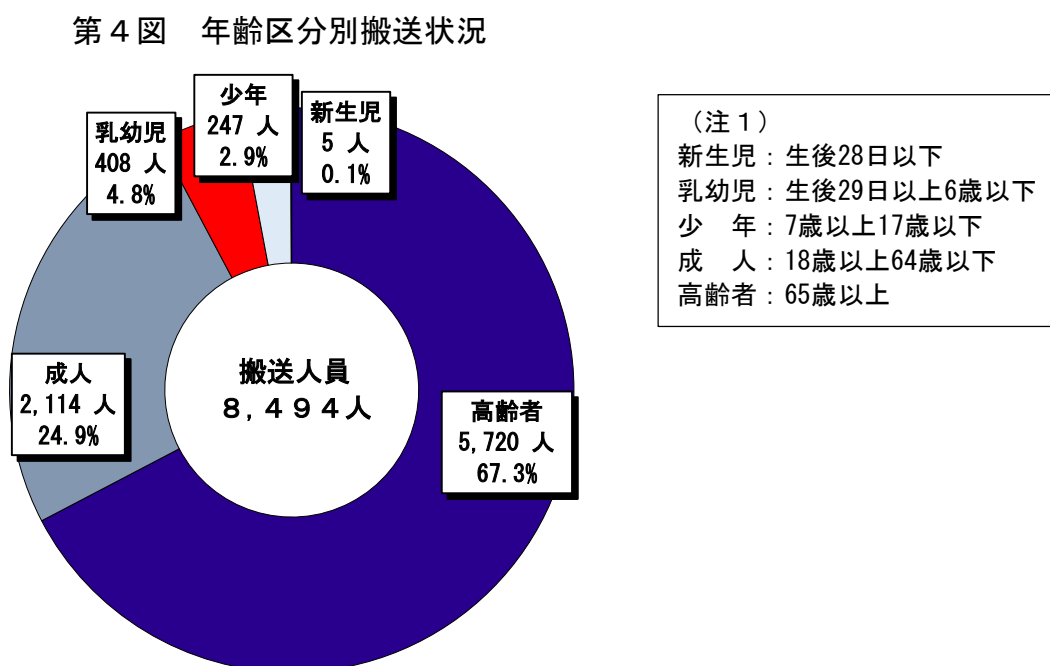
3 事故別出場状況

救急出場件数を事故種別ごとにみると、急病が6,298件、一般負傷が1,506件、交通事故が588件などとなり、これら3種別で全体の90%を占めている。(第3図)



4 年齢区分別搬送状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が5,720人で全体の67%を占めており、成人が2,114人、乳幼児が408人、少年が247人、新生児が5人の順となっている。(第4図) (注1)



5 診療科目及び管内外別搬送状況

搬送人員を診療科目別にみると、内科が2,521人、脳神経外科が1,382人、整形外科が1,246人の順となっている。

搬送先医療機関については、全体の76%を市内へ、24%を市外へ搬送している。
(第1表)

第1表 診療科目及び管内外別搬送人員

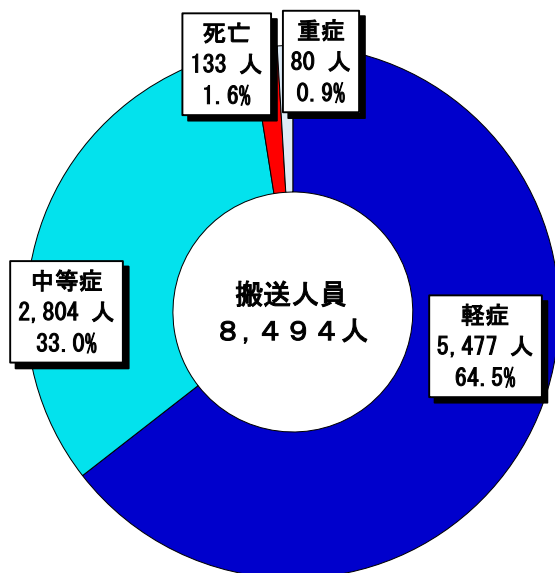
	八尾市内	八尾市外	合計（人）
内 科	2,024	497	2,521
循環器科	561	138	699
呼吸器科	615	260	875
小児科	142	245	387
外 科	168	79	247
整形外科	1,043	203	1,246
脳神経外科	1,063	319	1,382
産婦人科	14	49	63
泌尿器科	86	40	126
神経内科	658	107	765
そ の 他	94	89	183
合 計	6,468	2,026	8,494

※上記表中の「その他」とは、上記診療科目以外の全てのものをいう。

6 傷病程度別搬送人員状況

搬送人員の内訳を傷病程度別にみると、軽症が5,477人、中等症が2,804人、重症が80人などとなっている。(第5図)(注2)

第5図 傷病程度別搬送人員状況



(注2)

死 亡：初診時に死亡が確認されたもの
重 症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症：傷病の程度が重症または軽症以外のもの
軽 症：傷病の程度が入院加療を要しないもの

7 応急手当の普及啓発活動

救急車の要請から現場に到着するまでの時間は、上半期で約9.4分である。

救急車が現場に到着するまでの間、救急現場近くの住民等による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られる。

消防本部では心肺蘇生法の普及啓発活動を積極的に推進している。（第2表）

第2表 令和7年上半期普及啓発活動状況

区分 講習会名	開催回数 (回)	受講人数 (人)	講習内容
普通救命講習Ⅰ	3	110	心肺蘇生法・AED・止血法の3時間講習
普通救命講習Ⅱ	0	0	普通救命講習Ⅰの内容に実技試験及び筆記試験を加えた4時間講習
普通救命講習Ⅲ	6	147	心肺蘇生法（主に小児・乳児・新生児）・AED・止血法の3時間講習
上級救命講習	0	0	普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生法、外傷の手当法の訓練を実施した後、実技試験及び筆記試験を行う8時間講習
応急手当訓練	46	2,324	3時間に満たない心肺蘇生法・AED・止血法の講習
計	55	2,581	

〈参考〉

消防本部では、ご自宅や仕事場でも応急手当を学んでいただけるよう、動画「WEB自主防災（心肺蘇生法とAEDの使用法）」を作成し、YouTube 八尾市公式チャンネルで公開しています。

【動画イメージ】

【動画QRコード】

